

取組の経緯

育成目標		1対1での信頼性(ラポール)の形成法の習得			緊急時の行動を分かりやすく伝えるアプローチの力量向上		風評に惑わされやすい又は無関心な層を減らす力量向上		
行程表	◆研修名称	最新の社会心理学的知見を取り入れたリスク・コミュニケーター育成研修		原子力緊急時の地域住民への対応に備えるための平時におけるリスク・コミュニケーター育成研修	原子力緊急時に備えるリスク・コミュニケーター育成研修	安全性向上を担うリスク・コミュニケーター育成研修			
	◆受講料				無料（国の支援アリ）				無料（国の支援要請）
	◆研修形式	対面式	対面式	Web開発	Web改良	Web運用継続	Web改良継続	Web改良継続	対面式 ハイブリット検討
	基礎編カリキュラムの変遷								
	◆イントロダクション ◆福島第一原発事故対応	・本研修のコンセプト／1F事故を踏まえた原子力防災上の教訓と反映 1F事故の概要					リスク比較はなぜ用いない方がよいのか		
	◆放射線生物学	・低線量放射線生物学の基礎知識 ・がんのゲノムに残された放射線の爪痕（Radiation Signature）の発見				令和4年度は、「基礎編」を休止した。	少し専門的な放射線疫学		
	◆社会心理学の講義（ゲーミング体験）	・リスク認知の仕組み／リスク・コミュニケーションの実践・成功事例 カルテットゲーム クロスロードゲーム							
	◆臨床心理学の講義 ロールプレイ演習	・ラポール(信頼)の形成法とリスク・コミュニケーション ロールプレイ／ラポールを形成するための話の聴き方(傾聴)							
	実践編カリキュラムの変遷（令和3年度から立上げ）								
	◆産業・組織心理学 ◆実学(危機管理) ◆実学(SNS戦略 or 1F体験) ◆プランニング演習（ゲーミング体験やGW）					・ステークホルダーの情報の受け取り方 ・危機管理対応時のリスク・コミュニケーション ～クライシス・コミュニケーション～ ・SNSを活用するコミュニケーション ・リスク・コミュニケーション・プランニング バトルシップゲーム	原子力緊急時シナリオと情報受発信		1F事故対応体験
	特別編カリキュラムの変遷（令和5年度と令和6年度は「高レベル放射性廃棄物の最終処分編」として開催）								
	◆産業・組織心理学 ◆工学(技術的視点) ◆地域・社会学 ◆プランニング演習 GW						・信頼の構造とリーダーシップ ・地層処分の技術的観点からの優位性 ・市民/地域からの地層処分の課題 ・リスク・コミュニケーション・プランニング 住民説明会を模擬	令和7年度は、「特別編」を休止した。	
	その他の検討・調査活動								
◆プール構想検討 ◆アーカイブ化調査 ◆科学コミュニケーター調査						プール構想の試験運用	プール運用継続の見直し 原子力人材育成NWなどへの教材コンテンツのアーカイブ化調査 科学コミュニケーターとの連携調査		
受講〔申込〕者数計 （アンケート有効回答数）	108名	114名	[153名] (50名)	[194名] (129名)	[81名] (58名)	[239名] (134名)	[190名] (93名)		